

# 縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoaka Senior High School

135



- 02 卷頭言（PTA会長、校長、生徒会長）／優秀教職員表彰を受賞して
- 04 北信越高等学校PTA連合研究大会／全校人権学習AI時代の学び方と生き方
- 05 地区PTA／芸術鑑賞「無伴奏ソナタ」
- 06 活躍する県陵生① ロシア派遣プログラム／信毎海外記者派遣
- 07 合唱コンクール～英語科10年ぶりの栄冠～
- 08 強歩大会～2年ぶり開催～／活躍する県陵生②福島・ドイツ高校生交流プロジェクト
- 09 PTA研修旅行～広くてゆったりしたキャンパスで卒業生を囲んで～【名古屋大学】／活躍する県陵生③華道同好会
- 10 1年探究科国内研修旅行（11/20～22）／1年普通科国内研修旅行（11/21～22）
- 11 2年普通科修学旅行（11/21～24）／2年英語科国内研修旅行（11/23～25）
- 12 活躍する県陵生④ 卓球部・白虹会・書道部・インターナショナル部／エアコンアンケート
- 14 世界に羽ばたく卒業生！
- 16 縿陵2018年度SNAP／編集雑記



# 平成最後の年に思う



すぐには馴染めなかった平成という元号も、気づけば31年目に突入。

今年は改元の年となります。

思えば平成の始めの頃から「不確実性の時代」という言葉が使われ始めましたが、今や不確実なのが当たり前になった感があります。

大学入学共通テスト開始を2年後に控えるだけでなく、高等学校再編議論が進むであろう事や、教育へのICT機器活用が深化するであろう事など、生徒を巻き込む環境も「今迄と同じではない事」だらけになるのではないかと思います。

変化の多い時だからこそ、PTA本来の役割である、保護者と学校の密接なコミュ

ニケーションが更に重要になってくるのでしょうか。

そんな平成最後の夏、文化部のインターハイとも呼ばれる「全国高等学校総合文化祭」が長野県では初めて開催されました。

私は開会式に出席させて頂いただけではありますが、高校生の「情熱」「真摯な姿勢」「迫力」に言葉では表しきれない程の感動を覚えました。

ともすれば運動部に注目が集まりがちなきらいはありますが、部活動等の形態を問わず、生徒が各々の立ち位置で精一杯取組んでいる事を改めて再認識致しました。

本校のPTA事業は、皆様方のご協力で本年度も無事終了しようとしています。地区PTAは33地区中21地区と多くの地区で開催頂きました。PTA研修旅行ではノーベル賞受賞者を6名も輩出した名古屋大学を訪ね、本校出身学生との懇談も含め有意義な時間を過ごせました。強歩大会では多くの会員の皆様のご協力を頂き真剣に取組む県陵生へのサポートが出来ました。今号

PTA会長 竹内 公人

を含むPTA会報縣陵も、内容的・視覚的に大変質の高い仕上がりとなりました。

ご参画頂いた会員の皆様、中心となり遂行頂いた総務・研修交流・広報の各専門委員をはじめとするPTA役員の皆様、杉村校長先生はじめ担当職員の皆様、本当に有難うございました。

5月の総会で触れさせて頂いた懸案のエアコンについては、報道や年末実施のアンケート等でご存知の方も多いかと思いますが、県の英断で予算措置がなされ、本校では2020年夏からの使用開始予定となりました。

しかし今回はあくまでも緊急整備という位置付けであり、対象外となる「理科棟」「家庭科棟」への設置についてPTAとして議論を深めていく必要があろうかと考えています。

年号が変わっても、本校PTA事業は脈々と継続ていきます。

皆様方の変わらぬご支援、ご協力よろしくお願い致します。

## First Penguin

「First Penguin」というスローガンのもと平成30年度後期生徒会の活動がスタートしました。「First Penguin」とは集団で行動するペンギンの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛び込む1羽の「勇敢なペンギン」のこと。

リスクを恐れず、様々なことに挑戦していくこうという思いをこめこのスローガンを掲げました。

私は約10年ぶり\*の女子生徒会長ということで約4ヶ月前に会長に就任しました。

かなりの重責にまだまだプレッシャーを感じていますが、貴重な経験をさせて頂けることに感謝の気持ちでいっぱいです。すべてが自分にとって“挑戦”ですが、自分らしく生徒会を引っ張っていきたいと思います。

さて、本格的な生徒会活動がもう始まっています。私がこれから生徒会活動で大事にしていきたいと思っていることは

第72代生徒会長 田中 柚衣 (2年E組)



「変化」です。これは何もかも変えるということではなく、今まで行ってきた活動の本質をとらえ、必要な部分を変えていくということです。よく「現状維持は退化なり」と言われるように、ただ前を踏襲した活動を行うだけでは進歩しません。昨年までの活動を見直し、自分たちなりの工夫をしながら活動を行っていきたいと思います。

さらに、第72回縣陵祭へのカウントダウンもすでに始まっています。高校生活で3回ある縣陵祭ですが第72回縣陵祭は一度きりです。その一回が全校の皆さんにとってかけがえのないものとなるよう、生徒会役員でも一丸となって準備を進めています。輝く4日間にむけ、全員で駆け抜けていきましょう!

(\*【編集委員会注】記録で確認できる限り54代(2001年度)中村友美さん、61代(2008年度)永田典子さんに続き10年ぶり3人目の女性生徒会長)

# 課題解決能力をつけるために

学校長 杉村 修一



保護者の皆様におかれましては1年間本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をたまわり、誠にありがとうございます。

まず初めに今年度は本校の竹内公人会長に中信地区高P連の会長と県高P連の副会長の大役をお勤め願いました。特に県高P連総会と新潟市で行われた北信越県高P連総会において研究発表を務めていただき、その素晴らしい発表において多くの学校から絶賛されました。他にも県高P連副会長として活躍していただき、心より感謝申し上げます。

昨年3月末に新たな高等学校学習指導要領が告示されました。その中で「主体的で、対話的で深い学びの実現」や「生徒が問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実」が謳われました。縣陵はこのような新たな学びへの対応のため、現在の3年生が1年生の時から「信州学」を意欲的に行い、RESAS（地域経済分析システム）を利用しながらの探究学習の推進や授

業改善に向けての一つのツールとしての「電子黒板」を全HRに設置をし、その利用方法の研究に取組むなど、県下で先進的な取組みを進めてまいりました。その流れから創立95年目にあたる今年度、縣陵は探究科を設置し、普通科も「総合的探究の時間」授業内に取り入れました。

これから30年先を見たとき、多種多様な人との交わりが必要と推測されます。そんなときに現在の課題を解決するために、お互いがお互いの気持ちと考えを先ずは聞きながら、どのようにしたらその課題解決のための納得解を導く話し合いが大切になります。違った意見を大切にしながらも納得解を得る術が大切なのです。それには幅広い知識と教養そして「哲学」がとても大切になると思います。加えてICT機器を使いこなす技量も今後必須となります。1年生の探究科のiPad使用はとても大きな示唆を与えてくれました。それを踏まえ、新年度からは普通科の希望者にもiPadを購入してもらおうと考えています。(ICT環境面では同窓会に多大なるご支援をいただいております。)

そして「生徒たちも先生たちも共に学び合う」という縣陵の気風を止まることなく歩んでいくために、今年度末には新たなモデル校にも応募しよう考えています。引き続き、保護者の皆さまには、い

るいろいろな面でのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

余談になりますが、校長室に生徒たちがちょこちょこ顔を出します。色々なことを真剣に考えて来てくれます。「エアコンを入れてください。」「夏休みの方について校長先生はどうお考えですか?」「クリスマスコンサートについて僕たちの話を聞いてください。」「私の考える進路について意見を聞かせてください」等々各学年関係なく校長室に礼儀正しく入ってきて自分の考えを展開してくれます。一人一人よく考えていますし、とても誠実な語り口は清々しいです。私自身が想像しえなかつことまで考えており、素晴らしいなと思いながら、とても頗もしく感じました。中にはA4にまとめた資料を持参で新たな活動を訴えてくる生徒たちもいます。全てにおいて私としては聞くだけですが、笑顔で帰っていく様子を見るうれしくなります。

最後になりますが、文化部の活躍をお伝えしたいと思います。音楽部はNHK合唱コンクール、県合唱コンクール共に2年連続長野県制覇。華道同好会は「花の甲子園」県大会で初優勝し、京都全国大会に出場。インターナショナル部はディベートで2年連続全国大会出場と大活躍しました。文武両道の縣陵生、今後も大いに期待されます。

## 優秀教職員を受賞して

この度、平成31年1月15日、文部科学大臣より平成30年度優秀教職員表彰を受賞いたしました。このような栄誉は自分に全く縁のないものと思っておりましたので、甚だ恐縮しております。

表彰式が終わって今思うことは、今回の受賞は、自分ひとりの力で得たものではなく、長野県教員に採用されて以来、これまで学校現場で数え切れないほど多くの人たちと出会ったことにあると思います。そのすべての皆様から多くのことを教わり、様々な経験をさせてもらいました。ここにあらためて感謝いたします。

今後も皆様のご期待にそえるよう、周囲の方々の協力を忘れず、精進し、なお一層の努力を重ねる所存です。今後とも研鑽を積んでまいりますので、変わらぬご指導よろしくお願ひいたします。

中谷 幸裕



7/13・14

# 北信越高等学校PTA連合会研究大会

～本校、デジタル機器活用報告に大反響～

平成30年度北信越高等学校PTA連合会研究大会が平成30年7月13日～14日の日程で新潟県民会館を会場に開催され、本校からは杉村校長先生、竹内PTA会長、窪田の3名で参加致しました。

本年度はメインテーマとして「育てよう未来を生きる力」を設定し、各分科会で研究成果の発表会が行われました。研究発表会は4つの分科会に分かれて行われ、我々は家庭教育とPTAをテーマにした分科会に参加致しました。

本分科会の発表は家庭教育とPTAをテーマに発表会が行われましたが、各県代表者の発表は近年の家庭状況を反映した、「スマートフォンとの付き合い方」をテーマとしたものが主流を占めました。

発表内容は子供にスマートフォンを通じてのトラブル、例えばSNSへの不適な書き込みが起こすトラブルや興味本位のアクセスによる架空請求トラブル事例を共有し、スマートフォンの使用に一定のルールを設け、それを実行した成果等の発表が主流を占めました。

その中で本校の竹内PTA会長の発表はデジタル機器の負の側面

を見るのでは無く、インターネットを積極的に活用する事でデジタル機器の対応に遅れるデメリットを解消しようとする非常に意欲的な発表がなされました。発表では本校でのタブレットを授業に用いる活動やWi-Fi整備状況など今後の学校の授業改革に必要な要素を提言された素晴らしい発表がありました。



2日目は文部科学大臣補佐官の鈴木寛氏による記念講演会があり、2045年にはAIが人間を超え、職業の構造的変化が訪れる事、その時に対応出来る人材育成を図って行く重要性について聞くことができました。国はこの方針の下に2022年の高校大学一括改革に取り組んでおり、今後は学力の三要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的、対話的な深い学び」の内、「主体的、対話的な深い学び」をより重視していく事など今後の時代を反映した教育の果たすべき役割についても学べた非常に貴重な機会がありました。

10/4

## AI(人工知能)時代の学び方と生き方

～主権者としての高校生と人権～

10月4日教育評論家の尾木ママこと尾木直樹さんに、AI時代の仕事、これからの生き方などについて熱く語っていただきました。

AI時代には人間の働き方が変わり、20年後には仕事の約50%はAIが行うようになる。AIは無限に発展していくので、その先をどうコントロールしていくかが大切である。「私たちが幸せになるためにAIを使い、主役は人間であるべき。最終的には人間の知恵が勝る」と訴えました。

若者の読解力が低くなっていることを話題にし、知識の詰め込みはAIの得意分野なので、これからは、新しい価値を創造する力、緊張とジレンマを調整する力、物事の結末を受け入れて責任を取る力など『生き延びる力』が必要である。そのためには、行事や部活、日常の生活などを主体的に行い、同時にスマートフォンを使って最新の研究や情報を得たり、地球の裏側の人とつながったり「生活も学習も探求的なものに転換してほしい」と提案しました。

「ありのままに今を輝く」という言葉を生徒たちに贈り、ご自身がテレビ番組で共演した明石家さんまさんに「ママ」と呼ばれたことをきっかけに「人生の見え方が変わった。人生どこでどうなるかわからない」と生徒たちの未来にエールを送ってくれました。



元国語教師というだけに聞き手を引き込む話術はさすが。入試問題を例に出して考えさせたり、聴衆を退屈させないようにテレビ出演時の話題を織り交ぜ笑いを誘ったりするなど、聴く者を飽きさせない印象的な講演でした。



**Q: AIに代わられずに最後まで残る仕事は何ですか。**

A: AIができない仕事として最後まで残るのは、弁護士、学校の先生、土地の調査をする人でしょうか。サービス系の職業が最初になります。学びをサポートしたり、弁論したりする職業は消えません。

**Q: ありのままの自分がうまく周りに馴染めなかつたら自分が変わるべきですか。**

A: 無理をしなくてよいと思います。“友達たくさん、みんなと仲良し”というの是一面的な見方であり、一つの価値観でしかありません。しかし、いじけてしまうのではなく、自分を肯定する気持ちを高めながら輝いていってほしいです。自己肯定感というのは、物事を見る「フレーム」を変える=リフレーミングで生まれます。一人ひとりが、より一層輝くようにリフレーミングし、価値観を変えられる、そういう日本になればいいと思っています。

# 8月～1月 地区PTA

今年度も8月24日明科・生坂・会田地区から1月17日女鳥羽地区まで、全32地区中23地区（実施率72%）で地区PTAが開催されました。学校生活、進路など地区に特化して意見、情報交換がなされました。

## 地区PTA（三郷地区）

11月15日、JAあづみ三郷地域営農センター会議室にて三郷地区PTAが開催されました。

当日は、ぐっと気温の下がった秋の夕刻に杉村校長先生をはじめ、学年・地区担当の先生方にも出席していました。三郷地区は1年から3年生まで総勢50名にもなる大きな地区ですが、約半数の保護者の参加がありました。

進路指導の先生からは、前年度の進路の状況と子供たちの学習時間の調査結果についてお話をいただきました。学習時間の確保とクラブ活動の充実を両立するためには、まずは2時間以上の学習の確保が必須ということ、冬の間に勉強の貯金が大事だということを教えていただきました。生活指導の先生からは、自転車通学での注意点、特に接触事故を起こした際の事故対応について、相手の連絡先を確



認すること、警察へ通報をすることを徹底してほしいとのお願いでした。ルールとマナーを守って、事故の無い安全な学校生活を送ってほしいと思いました。そのほかは、生徒の私物の管理のこと、特に最近は落とし物があつても、落とし主が見つからないケースが多いという話を聞いて、大変驚きました。

短い時間ではありましたが、今回は前回出席した時よりも、各学年に分かれての情報交換の時間を十分に用意していただいたため、先生方に直接お話を聞いていただいたら、保護者同士でお子さんの様子を伺つたりと、予定時刻を過ぎてもなお、尽きない話題で盛り上がっていました。

同じ地区から進学し、年に一度顔を合わせることで親同士も改めて認識を深める良い機会でした。地区PTAの大切さを感じました。

## 2018年度中信地区高等学校合同芸術鑑賞～無伴奏ソナタ～

### 音楽の向こう側

高校最後の芸術鑑賞。配布されたパンフレットに「いかに生きるべきか?」という問い合わせ核心にあると書いてあったため、小難しい話かと思って少々身構えていた。しかし、そんなことはなく、笑いあり涙ありでとてもストレートに心に響いた。そして、様々なことを考えさせられる作品だった。

本作品の設定であった、幼いころの科学的な検査をもとに将来の職業が決まるという法律。これは、すぐに科学的な根拠を求める現代の社会と関わっているように感じた。このまま今日の科学技術が進めば、本当にこの作品のように科学的根拠で職業が決定される時代が来るかもしれないと思ったのと同時に、現代の科学の発展に何か訴えかけるものがあると感じた。

そして、最後のウォッチャーとクリスチャンが会話する場面は、予想していなかった展開に



3年B組 亀井 奎菜さん

かめい けいな  
亀井 奎菜さん



驚き、とても感動して涙が溢れた。クリスチャンの幸せを必ず壊しに来る、非情な人間に見えたウォッチャーに、初めて温かい人間味を感じた場面でもあった。同じ痛みを経験した人だからこそできることがあるのだと思った。

また、話が進んでいくうちにクリスチャンの音楽に対する姿勢が変わっていったようにも感じた。メイカー、ドライバーだったとき、彼は自分がやりたいから音楽を作り、ピアノを弾いていた。その時の彼の音楽の向こう側には人がいないように思えた。しかし、道路工事の現場での彼の音楽は、向こう側に人がいた。人のために作った音楽だった。だからこそ、彼がウォッチャーの役目を終えた後、コーヒーショップで若者たちが「シャガーラの歌」を歌っているのを見たときに、それが『拍手喝采』になつたのかもしれないと思った。

最後の芸術鑑賞は、充実した、心が洗われるような時間だった。

# 活躍する県陵生 その①

4/2 ~ 4/7

## ~ロシア研修に参加して~

2年H組 竹村 聖愛さん



私たち、4月2日～4月9日までの7日間、日本人高校生派遣プログラムへ参加させていただきました。我が校からの3名と、国内の高校からそれぞれ代表者が選ばれ計15名の高校生が現地の方々との交流を目的に参加をしました。私自身にとっては初めての海外であり、学校の代表として参加するという責任感もあったため、とても不安でしたが、様々な方のおかげで充実した日々を過ごすことができました。

今回の研修では、サンクトペテルブルグ市内にある第83番学校の先生方、生徒さんに大変お世話になりました。特に宿泊は第83番学校の生徒の家庭へホームステイさせていただいたので家族の皆さんにもお世話になりました。

この研修を通じてとても驚いたことは本当にたくさんの方が日本に興味を持ってくださっていたということです。第83番学校では、日本語と英語の教育に力を入れており、小学生から同世代の生徒まで日本語で会話をすることができます。生徒たちは書道の授業や日本語だけのテストも受けているため、日本からは

離れた土地に住んでいるのに、日本を身近に感じる環境で学習していました。

私のホームシスターは私より1つ年上のお姉さんだったのですが、日本のアニメがとても好きで、私の見たことのないアニメをたくさん知っており、家でも一緒に見ました。研修へ行く前はロシアという国がとても遠い国のように感じていたのですが、研修を終えた今ではとても身近な国に感じるようになりました。

研修中には、ロシアの伝統的な建造物、食文化にも触れることができ、また私たちの日本の学校、文化について紹介を通して文化の交流ができたと思います。全てのことがとても刺激的で本当にあっという間に時間が過ぎてしまいました。もちろん現地の方々だけではなく、一緒に7日間行動をした他校の12名のメンバーとも数え切れないほどの思い出ができました。私と同じように他国に興味を持っている同世代の人と出会えてとても刺激を受け、新たな目標を見つけることのできる研修となりました。

今回の経験を今後の学習に生かしていきたいと思いました。



7/29 ~ 8/5

## ~記者の卵として：アメリカ学生記者派遣～

2年H組 若林野乃実さん

私は7月29日から8月5日までの8日間、信濃毎日新聞社主催の第7回学生海外記者派遣に参加しました。この事業は、長野県内のの中・高校生20人がアメリカ・ワシントンD.C.とニューヨークで連邦議会議事堂や国連本部などを訪問して自分の決めた2つのテーマについて取材をするというものです。

私は女性の人権問題と仕事についての考え方の2つのテーマで取材をしました。アメリカでの取材は緊張感もありましたが、初めての体験への期待も大きく、また、集まった中高生全員の意欲に満ちた姿を見て、私も取材に力が入りました。

そんなアメリカでの取材の1日目は、ワシントンD.C.のホワイトハウス前広場とリンカーン記念堂での取材から始まりました。取材は、その場にいる観光客や道行く人に声をかけて質問に答えてもらうという方法でした。

が、声をかけにいく勇気と断られたときにショックから立ち直る力が必要でした。最初は多国籍で多民族のアメリカで自分の英語

は伝わるのか、相手の英語は聞き取れるのかと不安も多かったですが、それ多くの人に話しかけるうちに自然と対応できるようになりました。

少し取材に慣れた2、3日目は国立航空宇宙博物館別館で実際に使用されたエノラ・ゲイを見学したり、ガールズ・ボーイズスクウトとの交流会をしながら、取材も続けました。

4,5日目はニューヨークへ移動して、自由の女神像を遠望し、NYメッツの試合観戦をしつつ、国連本部に訪問・取材をしたり、9・11メモリアル博物館で9・11の当時の映像や壊れた消防車を見て9・11について学びました。

アメリカでの実質的な取材期間は5日間でしたが、昼食や夕食のときにもゲストを呼んでいただいたらしく、国際的に活躍しているアメリカ在住の日本人の方々の講演会を開いたり、内容の濃い充実したアメリカ滞在となりました。派遣の報告、滞在中の様子などは学生記者派遣のホームページにも載っているので気になる方はそちらもご覧ください。<http://nagano-sk.jp/index2018.html>



9/7

# 白熱の合唱コンクール

## 英語科としては10年ぶりの最優秀賞獲得

以前は最優秀賞常連クラスであった英語科は近年、上位入賞をはたすものの最優秀賞に手が届かない状態が続いていました。今年度は英語科としては実に10年ぶりに最優秀賞を獲得しました。



「差をつけるのが難しかった」

### クラス一丸の合唱コンクール

9月7日の午後、大体育館にて毎年恒例の合唱コンクールが行われた。今年の合唱はどのクラスも質が高く、講評をしてくださった先生も、「上位入賞クラスは差をつけるのが本当に難しかった」とおっしゃっていた。特に賞の上位を占めていた3年生の合唱は、強弱はもちろん、表現の仕方、発声、各パートのバランスや音程などに安定感があり、受賞にふさわしい合唱だった。

早いクラスでは夏休み前から準備・練習をしており、その他のクラスも、全員で一丸となって合唱を創り上げようとする様子がうかがえた。本番ではその成果が存分に發揮されており、衣装、選曲、指揮の振り方など、どのクラスもそれぞれ個性があった。掛け声から始まる曲やソロパートがある曲もあり、聴いている人からは驚きの声が上がった。今回はいくつかの曲が被ってしまっていたが、同じ曲でも歌うクラスによって違って聴こえた。

閉会式では結果発表と表彰式が行われ、受賞クラスの代表者は誇らしげにクラスメートに賞状を掲げていた。コンクールが終った後は、合唱練習に全力で挑んできただからか、賞を受賞したクラスもそうでないクラスも、お互いをねぎらったり、喜び合ったりする姿がうかがえた。

(県陵新聞11月6日号より転載)

### 「高校最後の合唱コンクール」 3年H組 小林優理子さん

合唱コンクールで私たち3Hは、1、2年生の時からとても真剣にとり組んできました。1年生で銅賞、2年生で銀賞を受賞することができ、3年生では最優秀賞を取りたいという目標に向かって努力をつみ重ねました。しかし、ヒカリという曲はハーモニーや男性の高音などきれいに響かせることがとても難しい曲で完成させることにとても苦労しました。

夏休みからの練習をクラス全員が一丸となってとり組んだことにより、きれいなハーモニーを作りだすことができました。クラス全員で勝ち取った最優秀賞を私たちはきっと忘れません。3Hのみなさん、ありがとうございました!

### [受賞クラス]

最優秀賞（金賞）	3年H組
金賞	3年E組
金賞	3年F組
銀賞	3年A組
銀賞	3年G組
銀賞	3年B組
銅賞	1年D組
銅賞	2年C組
銅賞	2年G組
指揮者賞	横山 雄紀（3G）
伴奏者賞	平林 莉奈（3F）



●「技量の高さ、そして高校生である今しか出せない力強さと素直さに感動しました。忙しい高校生活の中、短期間で完成させた集中力が素晴らしいです。また初めて音楽部の演奏を聞いて、驚くとともに2冠と聞いて納得しました。」(保護者感想)



10/12

# 強歩大会

～強歩大会、2年ぶり快晴のもと生徒快走～

前夜からの雨は上がったものの、この秋一番の冷え込みの中、2年ぶりとなる強歩大会が行われました。学校を出発し、男子32.9km、女子28.0kmの距離を所定時間内にチェックポイントを通過しながら、再び学校へ戻ってくるというので、高低差は300m以上にもなる過酷な道程です。牛伏寺入口を経由し、そこから更に崖の湯方面への急な坂を上ります。後半は一気に坂を駆け下ります。ゴールへ向け、前半よりもペースを上げて走る生徒も多くいました。沿道やチェックポイントでは、先生方や保護者からの

声援に爽やかに答える生徒たちの姿が見られました。記録を目指した走った生徒も、友人と語らいながらゆっくりゴールを目指した生徒も、皆それぞれの思いやペースで達成感に満ちた強歩大会であったに違いありません。

校長先生はじめ諸先生方、保護者を中心としたボランティアの皆様、補助員を務めた生徒たちの支えのもと伝統ある行事を行えたことに感謝し、今後の自信に繋げていってほしいと願っています。



## 男子1位

2-B 勝野 一平君  
(サッカー部)



昨年度は中止となり、強歩大会は初めてでした。きつい時もありましたが、諦めずに最後まで走って良かったです。  
2位 1-A 上條 陽輝君  
3位 1-G 玉井 廉馬君

## 女子1位

2-G 工藤 愛菜さん  
(陸上部)



大会前日なので足が壊れない程度に走れたらと思っていました。徐々にペースアップして気持ちよく走ることができました。  
2位 2-E 伊藤 花織さん  
3位 2-C 安永 友麻さん

## 活躍する県陵生 その②

8/5 ~ 8/19

### ～2018福島・ドイツ高校生交流プロジェクト～

2年D組 真船日向子さん

「特定非営利活動法人アースウォーカーズ」主催の「福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2018 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト」のもと、東日本大震災によって被災した9人の高校生が8月5日~8月19日にかけてドイツへ派遣されました。

私は海外の自分と同じ高校生が、原発や福島の原発事故に対してどう思っているのか知りたい、また、自分の震災から今までの体験を伝えたいと思い、このプロジェクトに参加しました。

ドイツでは4つの都市をまわって、それぞれ9人が自身の震災から、今までの体験を英語でのスピーチをしたり、学校の授業を体験したり、再生可能エネルギーについての講座を受けたりました。

印象に残っていることは、ベルリンの博物館や記念館や連邦議事堂などを見学したことです。連邦議事堂では、「国民」ではなく世界のすべての「人」の平等や尊厳を謳ったドイツの憲法について知りました。完璧な憲法なんて存在しないと思いますが、自国である日本の憲法も、よりよいものになっていくように私

もよく考えたいと思いました。また、ユダヤ人に対して追悼の意を込めて建てられた記念館を見ました。胸が苦しくなるような惨劇な写真が展示されていました。当時の過ちを二度と繰り返さないために、辛い過去と向き合っていくという雰囲気が、感じられました。

もう一つは、帰国前に上海国際空港でそれぞれの学校交流での授業について互いに意見交流をしたことです。自分の意見を言うことがすごく楽しいと思ったことに自分でもびっくりました。このメンバーでまた色々なことが話しあえる日が来るといい思います。またいつも通訳として私たちをサポートしてくれた方がいました。英語、ドイツ語、日本語が飛び交う場を目の当たりにした時には、胸が踊りました。言語を自在に操るってなんてかっこいいんだ!と、その通訳してくれている姿にホレボレしました。

このプロジェクトに参加できて本当によかったです。今回のドイツプロジェクトを通して、今まで全く関心のなかった難民の現状や再エネなどについて、たくさん学んで考え、自分の世界が大きく広がりました。



11/10

# PTA研修旅行

## ～名古屋大学編～

小雨の降る中、私たちを乗せたバスは7時半に蚕糸公園を出発しました。途中、渋滞のため予定時刻より到着が少し遅れましたが、まずは研修会場に集まり、自然情報学科環境システム系の杉谷先生より名古屋大学について紹介していただきました。質疑応答では生徒や保護者から大学での研究内容や留学、卒業後の進路についての質問があり、そのひとつひとつに丁寧に答えてくださいました。



その後、大学内のカフェテリアで昼食を取りました。昼食後は県陵卒の名古屋大学の学生さん5名が来てくださり、3グループに分かれて懇談会が行われました。懇談会では、現役大学生の声を聞くことができて、大学生活のイメージが湧いたと思います。県陵生からは名古屋大学を選んだ理由、受験勉強の仕方など勉強面についての質問、また、大学周辺の環境、大学で学んでいる内容、アルバイト、サークル活動など大学生活についての質問がありました。保護者からもアパートを探し始めた時期や一人暮らしの大変さ、仕送りについての質問が出ました。

それから、大学生の案内でキャンパスツアーをしました。



大学内の敷地が広くてゆったりしているせいか、名古屋市内の騒々しさはなく、緑豊かで落ち着ける環境でした。このような環境で自分が興味ある研究に没頭できる大学生活は楽しいだろうなあと羨ましく思いました。

今回研修旅行に参加して、自分の目で大学を見学し、実際に大学の先生や大学生の話を聞いたことで、ただ大学紹介の資料やパンフレットを見るだけでは分からなかったことがいろいろ分かりました。企画・準備してくださった研修交流委員の皆さん、引率の先生方、どうもありがとうございました。

### 活躍する県陵生 その③

11/11

## 「花戦さ」花の甲子園全国大会初出場！

華道同好会2年B組 竹田 愛美さん

華道同好会は本年度「ikenobo花の甲子園2018」全国大会（11月11日、京都池坊会館）に出場しました。その大会では3人で1チームを組み、お花を生けプレゼンテーションをしますが、今年の夏3年生が引退し、部員は2人しかいませんでした。



幸い一緒に参加してくれる人が1人いたので参加できることになりましたが、この個性豊かなチームで県大会を突破し全国大会まで出場できるとは思っていなかったのでとて

も嬉しく思いました。

本大会では会場の大きさや審査員と観客の多さに、「全国大会に本当に来たんだ」と実感させられました。一次審査を突破することはできませんでしたが、他校の作品やプレゼンテーションから多くのことを学ぶことができたと感じています。

この貴重な体験で得た事をこれから繋げるとともに、応援してくださった友達や先生方、保護者の方に感謝しようと思いました。ありがとうございました。



## 研修旅行

11  
20  
22

1年  
探究科  
国内  
研修旅  
行



### 【旅程】

- 11月20日 8:00 松本→TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY) →筑波山  
11月21日 JAXA筑波宇宙センター→筑波大学→防災科学技術研究所  
→JICA筑波→物質・材料研究機構  
→夕食(お台場:バイキング、月島:もんじゃ焼き)  
11月22日 班別行動→15:00東京発

### 【費用】約34,000円



## ～物質、材料、光、身近なものの背後にある科学～ 1年 A組 近藤 美保さん

私は東京方面研修2日目に、物質・材料研究機構の見学に行きました。

見学ではまず、金属について学びました。私たちも、金属の種類による熱伝導や熱耐性、硬度についての実験を実際に体験しました。一言に金属、と言っても、金属にはたくさんの種類があり、性質も異なることがわかりました。また、その違いを利用して生活に役立てていることも知りました。例えば車については、全てを丈夫な金属にするのではなく、あえて硬度の低い金属を使って、事故の際のクッションになるようにしているそうです。このように金属は、硬いからいい、熱伝導率が高いからいい、というように単純に良さが決まるのではなく、金属の良さは使用目的によって決まることがわかりました。

私たちは見学で、光についても学びました。光には、γ線、X線、紫外線、赤外線、可視光線などたくさんの種類、色が

ありますが、これらは全て波長の長さによって決まるそうです。光の波長を変える装置を使って光の色の変化を見させていただきました。私は紫外線は普通の光とは全く別のものだと思っていたので、普段見ている普通の光が紫外線に変わった瞬間はとても驚きました。また、世界にあるものは全て、色があるけれど、私たちが見ている色は、実は反射光だということを知りました。植物が緑色に見えるのは、植物が緑色以外の色の光を吸収し、緑色の光だけ反射しているからなのだと思います。

私はこのような見学を通して、身近なものでも知らないことはたくさんあり、それを深く、詳しく知ることで様々なことに生かせるということを学びました。だから、1つのことをより深く探究していくことが重要なのだと思いました。自分が行う探究活動が、誰かの役になったり、助けになったりするように深い探究をしていきたいです。



### 【旅程】

- 11月21日 8:00 松本→TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY)  
→夕食(お台場:バイキング、月島:もんじゃ焼き、有明:バイキング)  
→ホテル(有明ベイワシントンホテル)

11月22日 班別行動→15:00東京発



### 【費用】約22,000円

## 先人に学び世界へ Tokyo Global Gateway と法務省資料館 1年 H組 橋原ひまりさん

私たちは11月21日～22日に東京研修へ行きました。この東京研修を通して学んだことが2つあります。

1つ目は、実践的な英語力の必要性です。これはTGG(東京グローバルゲートウェイ)に行って特に強く感じました。TGGでは、エアポート・ホテル・トラベル・キャンパスの4つのゾーンに分かれています。ミッションが与えられ、英語を使ってクリアしなければなりません。私はキャンパスゾーンへ行きました。ここでは、ブックストアで物を買うときや、カフェで自分の飲み物を注文するときは英語で伝えなければなりません。最初はどのように英語で伝えればいいのか分からず不安でしたが、一緒にいた外国人のスタッフさんがアドバイスをしてくれたおかげで、楽しく相手の方と会話することができました。そして、身振り手振りを使って少しでも相手に上手く伝えられるように工夫しました。この体験を通して、私は英語力をもっと磨きたいと思いました。現在は英語が国際的にも重要なため、TGGでの体験を忘れずに、実践的な英語力を身につけていきたいです。

2つ目は、昔の人々への感謝の気持ちです。これは2日目に法務省史料館に行ったときに感じました。史料館では、明治時代に作られた民法や刑法などが数多く展示されました。これらの民法、刑法などは昔の日本政府だけでなく、「お雇い外国人」として日本に派遣されていたドイツ人の方々も編集に携わったそうです。また、犯罪者の特徴や殺人事件などの内容が詳細に書かれたメモが資料として展示されていました。私はこれらの展示物を見て、犯人を見つけることに対しての執念に圧倒されました。私たちが今、平和に暮らせているのは、昔の人たちがその基をしっかりと固めてくれたおかげだと分かりました。私は改めて今の日本の法律の基を作ったたくさんの人々に感謝したいと思います。

この貴重な体験を生かして、学校生活を送っていきたいです。





## 【旅程】

- 11月21日 9:00 松本→中部国際空港→台北・桃園国際空港→ホテル:シーザーメトロ台北  
 11月22日 台北市内見学(故宮博物院、忠烈祠)→B&Sプログラム→大学生と班別行動  
 11月23日 学校交流→九份散策→グループ別行動(士林夜市、台北101展望台、足つぼ、京劇11)  
 11月24日 7:30発→15:40中部国際空港→21:00松本

【費用】約123,000円

## あっという間の三泊四日 2年E組 麻 陽茉莉さん

台湾の人との国際交流を通じて、異文化理解を深めたい、英語で会話をしたい、という思いで三泊四日の修学旅行に行きました。

一日目に訪れた故宮博物院では豚の角煮そっくりに作られた石の彫刻や象牙を何層にも削って作られた作品などが多く展示されていました。どれもとても丁寧に作られていて、今の技術でも再現できないものもあると知り、とても驚きました。同日に行ったB&Sプログラムでは、グループに分かれて現地の大学生と一緒に台北市を観光しながら、日本とは異なる習慣やシステムを知ることができました。例えば、台湾の人は一日五食食べていることや地下鉄に乗る時切符ではなく、ICチップ入りのプラスチック製のコインで乗れることなど、初めて知るものばかりでした。また、大学生との英語でのコミュニケーションをつうじて双方の文化理解も深めることができたように感じます。

二日目には現地高校生との交流をしました。グループに分かれて学校を案内してもらい、体験授業などをすることがで



きました。私は音楽の授業に参加させていただき、フレームドラムという楽器を演奏したり、歌やドラムに合わせて伝統の踊りを踊ったりと台湾の文化を体験する事ができました。また、現地の高校生はとても親切で、言葉が通しない時にはジェスチャーで教えてくれたので楽しく交流ができました。

午後には十分と九份に行きました。十分では願いを書いた灯籠を飛ばしたのですが、意外にも火が熱くて少し怖かったです。しかし、電車が目の前を通りたりと、日本では経験できないことも多かったです。映画「千と千尋の神隠し」のモデルにもなったとされる九份には食べ物の屋台が並んでいたり、提灯が海上に沢山吊るされていたり、お茶屋さんがあったりと本当に映画の世界に入ったようでした。そこで買ったお茶はとても良い香りがして美味しかったのでお土産にも最適だと思います。

旅行中、大変なこともありましたが、三泊四日の中に思い出が詰まった充実した修学旅行でした。

## [2年]普通科修学旅行



## 【旅程】

- 11月23日 8:30 松本→東京外国语大学→東京江戸博物館→宿舎  
 11月24日 研修①(プレゼンテーション)→浅草実習  
 →研修②ホテルにてプレゼンテーション  
 11月25日 研修③プレゼンテーション発表会  
 →ホテル発:12:15→松本 16:00

【費用】約40,000円



## 浅草寺で100人インタビュー、これでロンドンもばっちり! 2年H組 二木悠美子さん

私たち英語科は11月23日~25日まで東京研修に行ってきました。

1日目、私たちは東京外国语大学と江戸東京博物館に行きました。東京外国语大学ではちょうど文化祭が行われており、多くの人にぎわっていました。学科ごとに様々な国の料理の出店が出ていたので、そこで昼食を食べました。私が食べたインドのバターチキンカレーはかなり本格的でおいしかったです。校舎内では受験生対象の説明会や、外大生と話せるコーナーなどがあり、大学のことや今やっておくべき勉強など詳しく話を聞くことができ参考になりました。次に私たちは江戸東京博物館に行きました。江戸時代の街並みを再現した巨大ジオラマがあり、当時の人々の暮らしの様子を細かく見ることができ、面白かったです。また博物館にはさまざまな体験コーナーもあって、畑の肥料の重さを担ぐことのできるコーナーでは、重くて二つついっぺんに持ち上げることができませんでした。昔の人はこんなに重いものを手で運んで農業をしていたのだなあと、あらためてその大変さを知ることができました。

2日目に私たちは浅草に行き、グループに分かれて外国人観光客に英語でインタビューをしました。私たちのグループでは「日本人と外国人のリンゴと太陽の色のイメージのちがい」をテーマに質問をしました。最初は戸惑いましたが、声をかけていくうちに、相手の後ろからではなくなるべく正面から話しかけること、相手に伝わるようにはっきりゆっくり質問することが大切だということを学びました。観光客の方も親切に答えてくれる人が多く、100人以上の外国人観光客からお話を聞くことができました。3月に行く研修旅行先のイギリスでも、現地の人にインタビューをするので今回の経験はとても貴重なものとなりました。

3日目はこのインタビューの結果をもとに英語でプレゼンテーションを行いました。他グループの発表を聞き、いろんな観点から日本と外国の文化のちがいを見つけることができました。3日間の東京研修を通して、あらためて自分の国の文化や歴史を見つめなおすことができました。イギリス研修では、イギリスの文化や歴史を体感したいと思います。

## [2年]英語科国内研修旅行

11  
21  
S  
24

11  
23  
S  
25

# 活躍する県陵生 その④

11/11

## 卓球部北信越大会 卓球部、全国大会出場へ！

2年E組 大池 桜月紀さん

卓球部、女子チームは新人戦中信地区大会で2位、県大会3位となり、北信越選抜大会出場となりました。

北信越選抜大会は4チームずつによるリーグ戦で、金沢学院（石川県1位）に0対3、高岡西（富山県2位）に3対2、新潟産業大付属（新潟県3位）に3対0の2勝1敗となり全国選抜大会の出場決定トーナメントに進みました。1回戦で長野商業（長野県1位）に1対3と敗れ、全国選抜大会への出場はできませんでしたが、ベスト8になりました。

また、男子シングルスに中信地区代表として出場した池戸 寛人君（2B）は、予選リーグを3勝1敗で2位となり、決勝トーナメントに進みベスト8に入賞しました。



県大会で全国選抜大会出場決定戦を勝ち抜いた平林しほりさん（2G）は3月末に行われる全国選抜大会に出場します。全国の大舞台に挑戦する彼女に応援をお願いします。

団体戦では残念ながら全国大会出場はかないませんでしたが、北信越の大舞台に立ち、高いレベルの相手に健闘したことはチームにとって大きな力になりました。大会を通じて自分たちの成長を感じ、さらなる課題を見つけることができました。部員一人一人がこの経験を生かし、今後の大会でさらに大きな舞台に進めるよう挑戦していきたいと思います。

11/16

## 白虹会：明るい選挙啓発コンクール最優秀賞 他者啓発

2年D組 渡辺 リナさん



今、この文を読んでくださっている在校生、来年度新入生、もしくはそれ以外の人。

私からひとつ、お願ひがあります。授業では主要教科はもちろん、実技教科であっても決して手を抜かないでください。

私は平成30年度明るい選挙啓発ポスターコンクール高校生の部で最優秀賞をいただきました。その授賞式が、11月16日に長野県岡谷市で行われ、私が描いた作品が多く人の目に触れると同時に、他の受賞者の方の作品と比較される機会となりました。

想いの籠ったメッセージ、丁寧に着色された絵、目を引く

秀逸なデザイン。どれも、私の作品にはない、しかし私より年下の子供たちの作品にはあるものでした。

私の作品は、彼らの傑作とはかけ離れた、稚拙で幼稚なものでした。『美術の授業の課題で描くポスターだから、提出さえすればいい』、そう思って描いたものだったから。もっとこの作品に技術を、時間を、情熱を注いでいたら。今はそう思い悔やむばかりです。

ですから、どうかこれを読んだ人。自らに課された問題には真摯に向き合い、自分が後悔しないよう、最善の選択と行動をしてください。他でもないあなた自身のために。

11/17

## 白虹会：長野県環境ポスター最優秀賞 絵を描くということ

2年D組 長瀬 桜乃さん

私は白虹会に所属していて、好きなものを油絵で自由に描いたり石膏デッサンをしたりしています。

絵を描くということは見てくれる人がいないと成り立ちません。さらに、正解も存在しません。正解がないということは自由でもあり、また苦しくもあります。

この度はありがたいことに長野県環境ポスターの最優秀賞を2年連続でいただきました。自分の描いた絵が何かの役に立てたり、見た人が感想を伝えてくれることは本当に嬉しいです。



12/7 ~ 9

## 書道部 第71回長野県書道展 最優秀賞『皇甫騎臺誌銘』

3年D組 大鹿 鈴夏さん

私は高校から書道をはじめました。3年間“造像記”という書体を書き続けてきました。線の鋭さ、力強さを出すのが大変でしたが、毎日練習を積み重ねました。たくさんの先生からご指導をいただき、特選という名誉ある賞をいただくことができました。これからも書についての長く、深い歴史を学び、様々な書体にも挑戦しながら、書道をつづけていきたいと思います。



12/15・16

## 全国高校生英語ディベート大会

## ～6回目のチャレンジで初のBest 8～

インターナショナル部は長野県高校生英語ディベート大会にて優勝、福井県福井工業大学で開催された第14回全国高校生英語ディベート大会に出場しました。今年の論題は「日本政府は積極的安楽死を導入すべし」。論題の発表は3月1日、以来半年以上にわたってこの論題で準備をしてきました。3月には岐阜聖徳大学の春期東海大会(4位)、5月東京、創価高校の練習会(4位)、本校で開催された北信越ブロック大会(7位)、北陸ブロック大会(4位)、東海ブロック大会(3位)など、対外試合は30試合を超えるました。

安楽死導入は肯定側の主な論点は1) 耐えがたい肉体的苦しみから解放し、安らかな死を。2) 耐えがたい心理的苦しみからの解放を。など。否定側の論点1) 死を選ぶことは自殺を奨励することになる。2) 老人、社会的弱者の死の選択肢をあ

たえることになる。そのほかに様々な論点を検討し、もっとも矛盾のない説得力のある論点を探りました。

これまで2011年の金沢大会より6回全国大会に出場。あと1ポイントが足りずに決勝トーナメントに進出できませんでした。6回目の挑戦にして、強い対戦相手に恵まれ、予選では優勝することになる竹園高校(茨城県)に0-2で敗戦、最終戦は渋谷教育学園澁谷(東京)に引き分け。10ポイント中7ポイントを獲得し、8位で決勝に進出しました。準々決勝では準優勝チーム、藤島高校(福井県)に2-3で惜敗しました。県陵チームは主として英語科生徒で構成されていますが、英語のコミュニケーション点では毎年高得点を獲得し、全国トップクラスの成績を収めています。今後とも長野県のトップ校として英語ディベートを率いていけるように努力します。



## エアコン設置に関するアンケート (H30.12実施) 結果

県立学校の普通教室への県によるエアコン設置が決まったことを受け、今回、設置されない教室について、次のとおり、お考えを伺いました。

今後、PTA総会において検討していくことになると思います。  
参考としていただければ幸いです。

問 県による普通教室等の工事に合わせて、理科棟及び家庭科棟にPTAの負担によりエアコンを設置することに賛成しますか？

【対象：1学年の保護者、回収率：54.4%】

区分	人数	%
賛成	159	91.4
反対	13	7.5
どちらでもない	2	1.1
計	174	100.0



世界に羽ばたく卒業生！

# 世界に羽ばたく



A組担任 福田 孝子

プラス思考と笑顔で幸せを引き寄せて

Day by day in every way I am getting better and better!

(毎日毎日あらゆる面でぼくはどんどんよくなっている)

Never never give up!

(絶対あきらめない)

『十二番目の天使』(オグ・マンディーノ著)より



B組担任 桑澤 悟

船出を見守りつつ

大海原に向かう皆さん。これからは自分で舵取りをしなければなりません。荒波のような幾多の困難もあるでしょう。それを乗り越えるたびに人間的に大きくなります。無限の可能性を秘めた皆さんの今後に幸あれ。



C組担任 高沼 光栄

前を向いていきたい

目を開いて、時代をしっかり見て歩いていきたい。



D組担任 西澤 崇浩

おめでとうございます。

3年間、学年および学級の教育活動に御協力いただきありがとうございました。この3年間をより「おめでたい」ものにするためにも、これから的人生を充実させていってほしいと思います。私自身も生徒のみなさんや保護者の方々から多くのことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。



# 卒業生！



E組担任 井出 敦  
**Challenge**

限界なんてない  
満足なんてしない  
常に前を向いて  
あくなき向上心を!!

F組担任 斎藤 亮  
**前に向いていこう。**

ご卒業おめでとうございます。濃い三年間でしたね。この学年・F組の担任ができて幸せでした。感慨に浸る余裕もないまま卒業という人も多いと思います。でも、振り返るのはまだ早い。これから的生活が充実することで、この三年間がますます輝くはずです。前向きにいきましょう。皆さん、楽しく充実した人生を送ってくれることを願っています。



G組担任 宮澤 修

## 大切なものの

「さようなら」「じゃあ秘密を教えるよ。とてもかんたんなことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」あなたにとっての大切なものは何ですか？

H組担任 郷原 俊一

## Just The Way You Are H組 **「素顔のままで」**

素顔のままでいい。飾らない今のその素顔がいい。今、精一杯やって弾けている自分がいい。今を精一杯生きている、その素顔が素敵だ。これから、どんなに変わっていったとしても、今のその輝く笑顔が一番いい。



## ～縣陵2018年度 SNAP～

### 北信越



### 編集雑記

- 疾風の如く過ぎて行った3年間。この先、「縣陵」を手にした時、輝いていた日々を思い返して頂ければ幸いです。(委員長3F戸田)
- 広報委員のなった役得で、今年はほとんどの行事に参加!中でも名大への研修旅行は楽しかったです。赤い腕章をつけて、高校生の写真をガンガン撮れたのも貴重な体験です!!(副委員長3E山本)
- 部活などの送迎時、子供達はいつも弛弛の話で盛り上がっています。さすが縣陵生は違うなと感じました。(3G有賀)
- 役員の皆さんと会報に載せる記事を細部までチェックをした時間は、なんだか部活をしていたような感覚で今思えば楽しくて、もう一回やってもいいかな~(笑)と思えました。これから会報は隅から隅まで読ませて頂きます!(2A赤羽)
- PTA会報、知りませんでした。楽しむ子ども達の様

子、保護者の皆さんと先生方の熱意、伝わります。(2D池田)

- 1年間お世話をになりました。歴史あるPTA会報「縣陵」の編集にたずさわることが出来、楽しかったです。何せ、弁当の文句しか言わないような息子から学校での出来事など聞けることもないですから…。会報を作りながら「楽しそうな学校生活だな~」「良い学校だな」と感じることが出来ました。ありがとうございました。(2F小林)
- 委員になったことで縣陵生の何事にも真剣で、一生懸命姿、純粋な姿、いろいろな姿を見ることが出来ました。たくさんの感動をありがとうございました。(2F近藤)
- 最初は大変な役員になってしまったと思いました。ですが、広報委員として携わることができたことに感謝しています。池上先生との打ち合わせも楽しかったです。(2H小林)
- 私も研修旅行や部活動に参加したいなあとうらやましくなりました。残念ながら高校生には戻れない

ので今出来ることを頑張ります!(1A池田)

- 初めて原稿を担当しましたが、無事発行することができホッとしています。取材、編集会議など様々貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。(1E松澤)
- 広報役員の責任を感じるとともに、新しい発見をしつつ1年間楽しく参加させていただきました。(1H青柳)
- 充実した高校生活のヒント載っています!(1H闇)
- 皆さんの校正に対する熱量の多さに感動。PTA会報として長野県代表になるのも納得です。(顧問3B竹内)
- 縣陵担当になって四年目、通算8号を担当しました。ちょこちょこと掲載する内容は修正してきました。今号の目玉は「活躍する縣陵生」それから、「縣陵」が中信、長野県、北信越の代表となり、全国大会で展示されました。SNAPの中央がその写真です。(担当池上)



松本県ヶ丘高等学校PTA会報

発行日●2019年3月1日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社  
写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

縣陵 135号

縣陵 PTA会報